

物流ハブがアジアと産業を結ぶ

万国津梁・沖縄

物流産業集積 ビジネス拠点に

沖縄県はANAが展開する国際物流のハブ拠点化を活用した産業振興に力を入れている。かつて琉球王朝が貿易で「万国津梁（世界の架け橋）」として栄えたように、沖縄をビジネス拠点として企業活動を推進する事業だ。

那覇空港に隣接する「国際物流拠点産業集積地域」那覇地区では、ANAの貨物ネットワーク利用を主眼に置いた物流センターを整備。現在はヤマト運輸（東京都中央区）と沖縄ヤマト運輸（沖縄県糸満市）が、同地区内の国際ロジスティクスセンターでパースセンター事業を展開する。東芝子会社の東芝自動機器システムサービス（川崎市川崎区）向け配送サービスで、自動紙幣処理機の部品を保管しアジアに最短翌日着で発送する。

また香港向け「国際クルール宅急便」も始まり、アジアで人気が高い日本の食品分野で活用幅を拡大。国内の食品メーカー

付加価値高める「琉球貿易」



日本の食品と世界市場を結ぶ沖縄大交易会

の開催を評価する参加者が多かったが、ANAの国際物流ハブ事業に対する関心も高かった。本開催となる14年は、招待するバイヤー数や会場の拡大が予定されるほか、一般参加者向けの日程を設ける構想もある。アフターコンベンションによる観光面での影響もあり、定着すれば沖縄の一つの目玉になりそう

だ。沖縄県は沖縄を物流上の経路地としてだけでなく、商品を高付加価値化できる場所として構想を抱いている。沖縄県国際物流推進課の担当者「沖縄のシークワサーや塩と、全国の肉や魚介類を組み合わせてギフトにするなど、沖縄を中継させることで付加価値化できる」と説明する。そのため国際物流拠点産業集積地域への立地に對する優遇策は、無店舗小売業や卸売業も対象にする。誘致への期待を持つ。また那覇空港は那覇港と、那覇つみそトンネルで結ばれており、航空物流と海運を組み合わせたロジスティクス戦略も可能だ。

県、賃貸工場を整備 製造業にもメリット



沖縄県は整備する国際物流拠点産業集積地域と、また地区がある。県が整備した賃貸工場が並び、各地から進出した製造業者が立地している。

大垣精工（岐阜県大垣市）は11年1月、触媒保持用ハニカムセラミックスの金型を生産する沖縄工場（沖縄県うるま市）を稼働した。「東京や大阪と同じ感覚で仕事ができる。一方で温度管理がしやすい、精密分野に向

いている」と、大森正末は最新型のワイヤカットの環境について説明する。加工した製品は梱包して宅配便で送る。海外向けにも那覇空港の物流ハブを活用した輸送網を利用している。製品は小型なため、宅配便で簡単に送ることが可能で、高付加価値製品のため航空便でも利益が出るという。

同社は沖縄県金型技術研究センターを併設する素形材産業向け賃貸工場に入居。13年9月には設

備を増強した。工場内には立地した。「小さな島から大きな大陸へ」と、千田美上席執行役員管理部長は進出したコンセプトを説明する。

同社工場内には保税蔵置できるスペースを持つほか、5面加工機と呼ばれる門型マシニングセンターやテーブルサイズ2300mm×940mmの大型マシニングセンターなど最新の最新加工設備をそろえる。従業員17人のうち10人以上が地元出身で、雇用創出や人材育成にも貢献している。

現在本格稼働を待っている状況で、今後海外への輸出に向けて意気込んでいる。

このほか隣接する関連工場にはアルモールド（山口県宇部市）など4社が入居。すぐ近くの中城湾新港は埠頭の整備も計画されている。那覇空港や那覇港へも車で約45分の距離にあり、製造業などビジネスの受け皿として、企業の進出が進んでいる。

製造業の拠点としても期待が大きい（大垣精工沖縄工場）

アジア9都市に翌日配送

ANAネットワーク活用

ANAが沖縄で展開する貨物輸送サービスは、那覇空港内に持つ自社物流施設「貨物上屋」を拠点と、車輪のように描かれた点として活用する。輸送することから「ハブ＆スポーク」と呼ばれる。積み替え、通関を深夜「イク方式」と呼んでいる。現在、国内は羽田・成田で積み替えを行い、46時に目的地に飛び立つ。6時から8時には貨物

空港である那覇空港の利点を生かしたものだ。沖縄・海外は上海・香港・台北・ソウル・バンコク・5路線。さらに14年1月には青島路線が就航する予定だ。

各都市を22 24時に到着。那覇の貨物上屋がアジアの各都市に届く。夜間を利用すること、昼間の時間ロスがなく、リードタイムを短縮できる。



アジア各地の貨物が深夜に那覇空港に集まる

ANAの沖縄貨物ハブ＆航空ネットワーク



(画像提供 ANA)

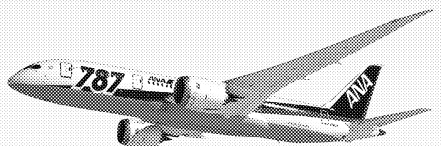
24時間空港の利点生かす

「積み替えに1〜2時間で、海外都市間の直行便間があるが、あたかも直行便が飛んでいるように、積み下ろしを待つ貨物専用機が並ぶ。多くのコンテナは「シップ・トウ・シップ」と呼ばれる航空機から航空機への横移動で、積み替えを行う。混雑品は上屋へ運ばれ、目的地に詰め替えて各都市へ届けられる。

ANAでは13年度末に、沖縄ハブ事業では10機目となる貨物専用機の米ボーイング767-300Fを投入する予定。さらなる事業の拡大やネットワーク強化、将来は那覇空港の滑走路増設が計画されており、輸送可能量が増えれば、今後ますますアジアのモノが沖縄に集まりそう。

日本の空へ。世界の空へ。世界が認めたANAで。

空を楽しむすべてのお客様のために。これからも、いつも新鮮な驚きやワクワクを乗せて、快適な空の旅にご案内します。



日本のエアライン初の最高評価「5スター」獲得

ロンドンに拠点を置く航空産業コンサルティング・格付け会社SKYTRAX社が運営する、エアライン・スターランキング。空港から機内サービスまで800を超えるカテゴリーにおいて、お客様が常に5スターレベルのサービスを体感できている航空会社のみが認定されます。

WORLD AIRLINE AWARDSも2部門受賞



World's Best Airport Services受賞
空港スタッフによるお客様一人ひとりに寄り添った心配りをはじめ、空港サービス全般が高く評価されました。



Best Aircraft Cabin Cleanliness受賞
いつも清潔さを高いレベルで保っている、きれいで快適な機内が評価されました。

過去1年間のすぐれた業績、定時到着率・就航率の高さも評価されています。



世界の民間航空業界月刊誌 Air Transport World誌より、Airline of the Yearに認定



Flight Stats社が運営するWebサイトで Network-Global Airlines部門 世界1位 Lowest Global Cancellations部門 世界1位